

UHCフレンズ閣僚級会合での大臣発言

グテーレス国連事務総長、テドロスWHO事務局長、UHCフレンズ共同議長、

昨年のUHCハイレベル会合で、「史上最も包括的な保健合意」と称される政治宣言が採択されて一周年。本日、フレンズ・グループやパートナーが集まり、ウィズ・コロナ、ポスト・コロナの時代のUHCについて議論することは大変意義深いことです。昨日、グテーレス事務総長が、新型コロナとUHCに関する政策ブリーフを発表されたことを心から歓迎します。

新型コロナの世界的拡大に対応するためには、「人間の安全保障」の理念に立脚し、「誰の健康も取り残さない」ことを目指し、UHCを達成することが重要です。日本は、この「人間の安全保障」の危機にあって、各国とも協調しながら、ウィズ・コロナ、ポスト・コロナの時代におけるUHCの達成に向けた国際的な取組を迅速かつ積極的に主導してきました。日本は既に15.4億ドルを超えるコロナ対策のための対外支援を、本年2月からの数か月間に、かつてないスピードで実施してきました。

日本が重視するのは次の3点です。

第1に、新型コロナへの対応能力の強化、特に、ワクチン等の開発及び公平なアクセスの実現です。日本は、今年6月のGavi増資会合で3億ドル規模の拠出をプレッジしましたが、今般、このうち1.3億ドル以上を途上国によるワクチンへの公平なアクセス強化のため、COVAXファシリティの事前買取制度（AMC）に対し拠出することを表明します。また、ACTアクセラレータのような多国間協力の枠組みを前進させます。さらに、グローバルファンドを通じた診断の拡充、特許プールを通じた治療薬の供給を提案していきます。

第2に、将来の健康危機に備える保健医療システムの強化です。例えば、ベトナムでは、感染症対応の中核となる都市の医療施設を整備し、ネットワーク化することにより、地域保健システムを強化しています。また、感染症の検査・研究を担う人材の育成を通じて、疾病監視体制を強化します。そのためには、持続的な財源確保や適切な予算配分が重要であり、これはUHC達成に不可欠です。

第3に、感染症に強い環境整備です。健康安全保障を確保するため、プライマリ・ヘルス・ケア拡充のためにも、栄養・水・衛生等の分野横断的な取組を、民間セクターとも連携して後押しします。新型コロナによる食料アクセスの阻害に伴い、栄養不良や発育阻害が深刻化していますが、日本は、アフリカ12か国で栄養改善に向けた支援を行っています。日本は、2022年のTICAD8も見据え、アフリカにおけるUHCの実現に向けた取組を強化していきます。栄養はUHCを支える基礎分野です。日本は、2021年後半に東京栄養サミットを開催し、世界的な栄養改善に向けた取組の強化に尽力します。

日本は、第二次大戦後の混乱と貧困を乗り越え、国民皆保険制度を導入し、UHCを達成したことで、経済発展と健康長寿を実現しました。新型コロナへの対応に際しても、日本の強靱な保健システムが、功を奏しました。改めて、「誰の健康も取り残さない」ため、ウィズ・コロナ、ポスト・コロナの時代におけるUHCが重要であることを強調したいと思います。今後とも、国際社会と手を携えながら、UHCの実現に向けて尽力していく考えです。

ありがとうございました。

(了)